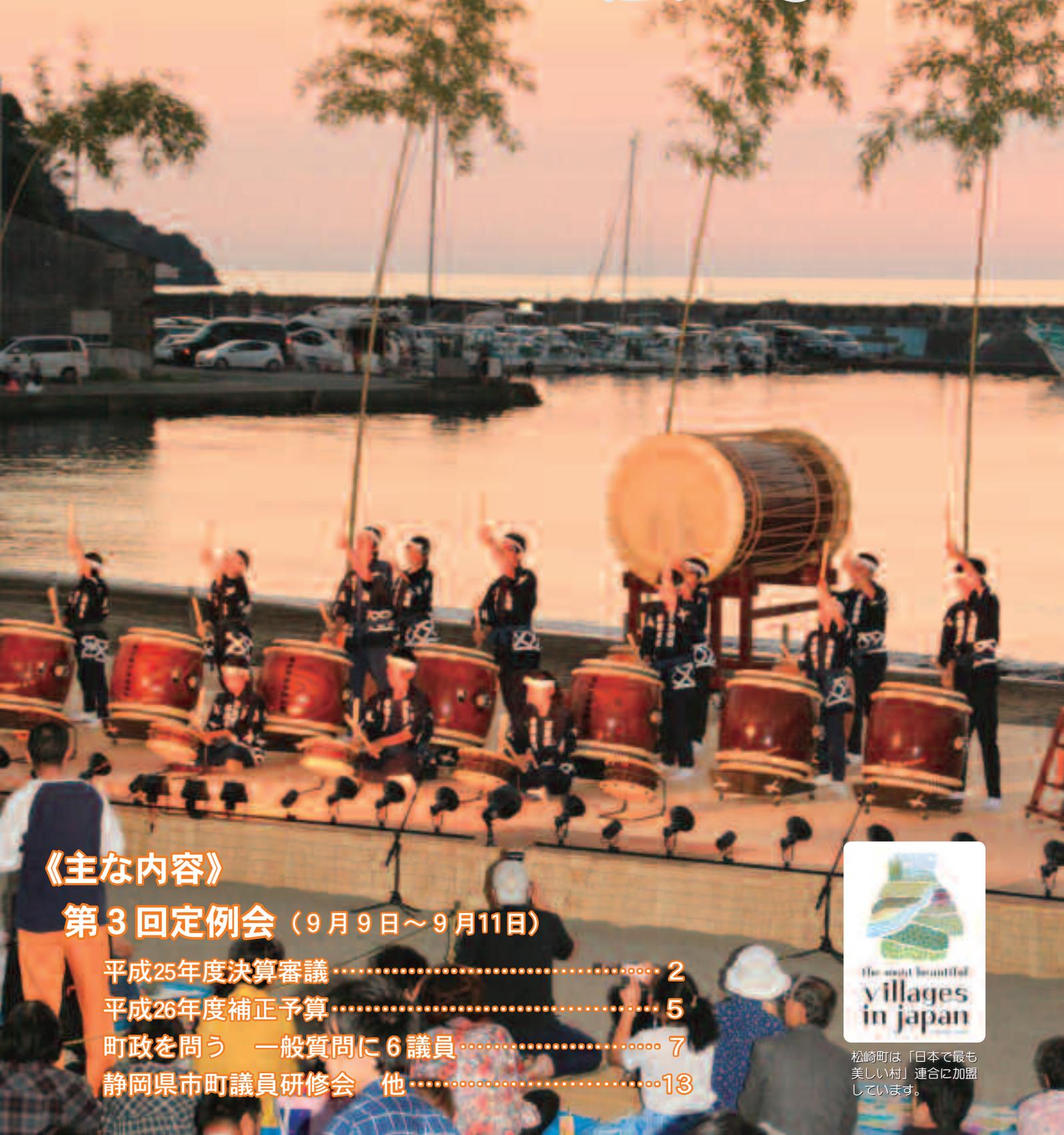




議会たより

No.105
平成26年10月16日

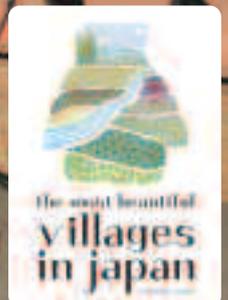
松崎



《主な内容》

第3回定例会（9月9日～9月11日）

平成25年度決算審議	2
平成26年度補正予算	5
町政を問う 一般質問に6議員	7
静岡県市町議員研修会 他	13



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

平成26年9月定例会

平成26年第3回定例会が9月9日から3日間にわたり開催されました。定例会では、平成25年度の一般会計および特別会計決算など20件の議案を審議いたしました。

平成25年度

一般会計 決算審議

歳入総額41億2579万4千円、歳出総額39億2142万7千円、繰越明許総額5979万4千円で1億4457万3千円の黒字決算となった。

歳入

問 町税が前年度より減っているが、その要因となる民宿や法人の数の動向は。

答 窓口税務課長 民宿の数は入湯税の申告義務者数だと旅館を含め、前年度106件から102件と減少傾向にある。また法人数も前年度186社から180社と減っている。

問 長八美術館など観光施設の入館料が低い水準にあるが、どんな取り組みをしてきたのか。

答 企画観光課長 観光客の入込状況を見ると、県内でも伊豆南部地域の

落ち込みが激しくなっている。特別展の開催やセールス活動、体験メニューを用意して取り組んでいるが思うような成果が出ていない状況である。今後、伊豆は一つという中で関係市町とも協力して伊豆南部地域への誘客を図っていきたい。

問 ここ3力年の町税の収納率の状況はどうか。

答 窓口税務課長 収納率は不納欠損分を除き、23年度87・8%、24年度86・8%、25年度86・8%で大きな伸びがない。収納率を上げていくためには、滞納者と今まで以上に粘り強く、時には強い態度で交渉していくことが必要であると考えている。

問 当町の財政は地方交付税に頼っている状況だが、今後の見通しは。

答 総務課長 地方交付税は、その時の国の方針によって大きく変動することがあり、また人口が

減っていくと交付税も減っていく算定式であるため、現状の交付税額を維持していくことは難しい。

問 滞納者が他市町村へ転出した場合、転出先の市町村に対して徴収を囑託委託しているのか。

答 窓口税務課長 現在、他市町村への囑託委託は行っていない。他市町村へ転出した場合には、当町から当該市町村へ滞納者の所得や資産状況を照会して当町が徴収を行っている。徴収の囑託委託については、制度上、可能であれば検討していく。



9月定例会 議場の様子

歳出

問 奨学金貸付制度は、25年度の新規申し込みがなかったとのことだが、利用の現状と周知の方法は。

答 健康福祉課長 現在、18人の方が奨学金貸付制度を利用してゐる。26年度から貸付額を増やしたので、広報紙などによりさらなる利用を呼び掛けていく。

松崎町奨学金貸付制度とは

高校や大学など上級学校に就学する者に対して奨学金を貸し付ける制度。貸付限度額は大学の場合、入学一時金20万円と月額3万円となる。貸付金は無利子で、償還期限は据置期間(卒業後1年以内)終了後10年以内の均等年賦償還となる。

問 自立支援給付費の内容と対象者数は。

答 健康福祉課長 自立支援事業では、身体などに障害のある方が自立して日常生活が送れるよう、いろいろな支援を行ってゐる。具体的には身の回りの世話をする居宅介護とか外出時の同行サービス、施設への短期入所、その他就労支援などを行っている。対象者は身体に障害を持つ方が457人、知的障害の方が60人となっている。

問 子育て理想郷モデル事業で婚活事業をやったとのことだが、その結果は。

答 健康福祉課長 県からの補助を受けて2日間にわたって婚活事業を実施した。募集したところ町外から女性13人、町内男性12人が集まったが、結果的には両者が結び付くところまではいかなかった。

問 子ども・子育て支援事業計画策定ニーズ調査を行ったが、アンケート調査の結果は。

答 健康福祉課長 子どもを持つ保護者を対象に調査を行い、その結果、医療費補助や経済的支援、遊園地を作ってほしいなどの意見があった。今後、これらを踏まえて子育て支援の計画を策定していく。

問 前年度に比べて過誤納付が多くなった要因は何か。

答 窓口税務課長 還付金の内訳は、間違つて二重に収めたものもあるが、過年度分を修正申告したことで、税額が減つたことが主な要因となっている。

問 消火栓改良工事で不用額が多く出た理由は。

答 総務課長 各地区からの要望が年度末になつて集中したため、年度内での工事完成が見込めず

不用額が増えた。今後は、各地区への要望調査をもつと早めに行つていく。

問 牛原山町民の森にある遊具撤去を行ったが、今後も牛原山を使いたいという声もある。今後の利用計画はどうなっているのか。

答 企画観光課長 遊具については、一部施設が老朽化して使用に耐えないため撤去した。牛原山町民の森については、26年度に今後の整備計画を策定することになっている。

問 ふるさと応援寄付金でいただいた寄付金の使道はどうなっているのか。

答 企画観光課長 ふるさと応援寄付金は、25年度に13人の方から383万7千円の寄付金をいただいた。特定の基金を設けていないので、寄付者の意向に沿つて福祉やまちづくり、防災の関係などの財源として使わせていただいている。

問 就農対策に係る補助金の実績は。

答 産業建設課長 新しく就農される方への助成で、5年間継続して営農することが条件の青年就農給付金が1人で年間150万円、町内在住者で新規または農業後継で就農される方を対象とした農業後継者対策事業補助金1人で年間48万円となっている。



整備計画が待たれる牛原山町民の森

国民健康保険 特別会計

歳入総額13億193万円、歳出総額12億60万円で1億133万円の黒字決算となった。

問 疾病予防のための特定健診受診率が低い状況だが、そのことをどのように考えているか。

答 健康福祉課長 受診率を上げるため力を入れて取り組んでいるがなかなか結果が表れない。受診に対する対象者の意識を変えてもらうことが大切であると考えている。

今後、健康マイレージ制度などを活用して受診率の向上を目指したい。

問 短期被保険者証と資格証明書の交付数はどれくらいか。

答 健康福祉課長 短期被保険者証の交付は58世帯、資格証明書は3世帯となっている。

短期被保険者証とは

国民健康保険料(保険税)を滞納した場合に、通常の保険証の代わりに交付される有効期間が3〜6カ月と短い保険証のこと。

資格証明書とは

医療機関窓口で一旦医療費の全額を支払い、後日申請により給付割合相当分(3割等)を返金する。

問 25年度において入院患者が少なかった理由は。

答 健康福祉課長 入院医療費の件数、費用などはわかるが、入院が少なかつた理由まではわからない。当町で多い脳血管疾患や心臓疾患、がんが入院される方が25年度は少なかつたことが挙げられると思う。

平成25年度 1件当たりの費用額

保険者	一般		退職	
	(円)	順位	(円)	順位
松崎町	20,700	11	26,231	2
西伊豆町	22,699	3	22,457	8
南伊豆町	27,522	1	22,604	7
河津町	24,171	2	20,550	17
東伊豆町	22,302	7	25,601	4

※費用額 窓口で支払っている額(3割等)+町の国保で支払っている額(7割等)
 ※順位 一般: 県内市町国保及び国保組合 計40団体のうち
 退職: 県内島市国保 計35団体のうち

問 25年度の1件あたりの費用額を見ると、県内順位で一般世帯の11位に対して退職者世帯は2位と高いが、その理由は。

答 健康福祉課長 一般約1500世帯に対して退職者世帯が75世帯と非常に占める割合が少ないので、一般世帯の数字で見えていた。

介護保険 特別会計

歳入総額8億1402万2千円、歳出総額7億8846万5千円で2555万7千円の黒字決算となった。

問 介護認定者の半分を占める要支援1・2と要介護1までの方が元氣になれば、介護保険制度はもっと安定して思うだろうか。

答 健康福祉課長 前年度より介護予防事業には力を入れて取り組んでいる。介護2以上になるとほとんど介護度が下がることがないので、今後もさらなる介護予防事業の充実を図っていきたい。

問 介護認定審査会は何回くらい開催したのか。

答 健康福祉課長 25年度は30回開催し、全部で660件分の認定審査を行った。

平成25年度要介護(要支援)認定者数

内訳	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
総数	76	69	125	80	59	74	54	537
第1号被保険者	76	67	122	79	58	73	51	526
65歳以上75歳未満	9	13	14	5	2	5	4	52
75歳以上	67	54	108	74	56	68	47	474
第2号被保険者	0	2	3	1	1	1	3	11

(単位: 人)

その他特別会計

後期高齢者医療特別会計および岩地・石部・雲見集落排水事業特別会計の決算は、いずれも原案のとおり全員賛成で認定した。

一般会計補正予算

歳入歳出に2億5539万3千円を増額し、補正後の額を38億315万6千円とした。

問 緊急避難路等整備工事の要件を満たすにあたって、幅員とか距離など必要な定めはあるのか。

答 総務課長 特に幅員とかの定めはない。津波到達予定水位よりも高いところで、地域の実情に合わせて整備を行っている。

問 旧中川小学校東側校舎と旧岩科小学校プールの解体工事の執行計画はどうか。

答 健康福祉課長 旧中川小学校東側校舎の解体は、予算議決後に解体工事の設計委託と解体工事を発注して1月末には完了させる予定。旧岩科小学校プールについても同様に年度内完了を目指していく。

問 救命胴衣購入費補助金の内容と住民への周知方法は。

答 総務課長 1着につき2千円を補助する。対象となるのは国交省の定める基準に合致したもので、釣りや水上バイクのために使用するもの購入は対象外となる。住民への周知については、広報や回覧などで対応したい。



校舎右側を解体予定の旧中川小学校

国民健康保険特別会計
補正予算

補正予算(第1号)は、歳入歳出に6049万2千円を増額し、補正後の額を12億7949万2千円とした。

問 国保全加入者世帯に占める軽減世帯の割合は。

答 健康福祉課長 軽減世帯の割合については、平成26年度において52%となっている。

後期高齢者医療特別会計
補正予算

補正予算(第1号)は、歳入歳出から624万3千円減額し、補正後の額を1億582万4千円とした。

問 後期高齢者連合会への納付金は、連合会から金額が出されて来るのか、町で算出するのか。

答 健康福祉課長 納付金は、本算定をしたことにより、町で再計算をし

て算出する。

介護保険特別会計
補正予算

補正予算(第1号)は、歳入歳出に1441万4千円を増額し、補正後の額を8億5608万9千円とした。

水道事業会計
補正予算

補正予算(第1号)は、県営中山間地域総合整備事業(道部地区農道新設)による水道本管の布設替工事に伴い、資本的支出を270万円増額。また、農道新設が県営事業のため、県繰入金120万円を増額するもの。

温泉事業会計
補正予算

補正予算(第1号)は、まつざき荘事業会計への貸し付けにより、資本的支出を1億5千万円増額。また、貸付金が増となったことに伴い、償還金収入および受取利息収入を

それぞれ増額するもの。

まつざき荘事業会計
補正予算

補正予算(第1号)は、借入金返済額などを減少させるために一般会計および温泉事業会計から総額2億8500万円を借り入れ、企業債を繰上償還するもの。

問 伊豆まつざき荘が存続していくための考え方を。

答 町長 これからどうするか内部で検討していきたい。伊豆まつざき荘は松崎町の財産なので、最後まで責任を持ち、良い方法を考えていきたい。



伊豆まつざき荘外観

条例・その他

◎松崎町手数料徴収条例の一部を改正する条例について

り災証明の発行に関連し、本条例の一部改正が必要となったが、現在は発行することのない証明手数料が残っていたため、今回の改正に合わせ、全体的な見直しを行った。

◎小型動力ポンプ付積載車売買契約について

【680万4千円で締結】
3分団3小隊（峰輪）に配備される。
【710万3千円で締結】
6分団3小隊（雲見）に配備される。

◎教育委員会委員の任命について

9月30日で任期満了となる藤池清信氏（桜田）の後任に、杉山公一氏（建久寺）を賛成全員で同意した。

意見書・請願書

◎地震財特法の延長に関する意見書の提出について

平成26年度末で期限切れになる東海地震対策への国の財政支援を定めた地震財特法特別措置法（地震財特法）の延長に向け、国へ働きかける内容。全会一致で可決された。

◎「手話言語法（仮称）」制定を求める意見書の提出について

手話が自由に使い、また言語として普及、研究できる環境整備に向けた法整備を推進するため「手話言語法（仮称）」制定を国に要望する内容。全会一致で可決された。

◎被害予測の過酷化に伴う浜岡原発の永久停止・廃炉を求める意見書の提出について

福島第一原子力発電所の事故から3年半が経つた今、浜岡原子力発電所

を取り巻く被害予測が大きく変わったため、浜岡原子力発電所の永久停止と廃炉を国へ求める内容。全会一致で可決された。

◎町道星山線崩落事故（当事者 土屋和美氏）の早期解決方法についての請願について

事故から2年半が経過している町道星山線崩落事故について、当事者の工事分割合を5%（工事分担当上限100万円）とする請願事項により、本件の早期解決を図る内容の請願。

慎重審議の結果、議会としては、すでに町当局が示した当事者の工事分割合15%を議員全員一致で賛成した経緯があり、また請願事項の5%とすべき明確な理由がないことから採択せず、しかし、議会としても本件の早期解決を願うため、請願の趣旨に賛同し、町当局へ早期解決を促す「趣旨採択」として賛成多数で可決した。

第3回定例会の賛否状況一覧

件名 / 議員	藤井	福本	佐藤	高柳	土屋	関	斉藤	一瀬	鈴木
	井	本	作	孝	清	唯	重	寿	源
	要	郎	行	博	武	彦		一	一
松崎町手数料条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町一般会計補正予算（第2号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町介護保険特別会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町水道事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町温泉事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度松崎町営宿泊施設「伊豆まつぎ荘」事業会計補正予算（第1号）について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	×
平成25年度松崎町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町岩地集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町石部集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成25年度松崎町雲見集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度小型動力ポンプ付積載車（3-3）売買契約について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成26年度小型動力ポンプ付積載車（6-3）売買契約について	○	○	○	○	○	○	○	○	○
教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：賛成 ×：反対

町政を問う



魅力ある教育づくりを（松崎高校体育祭）



藤井 要 議員

問 焼却場今後の方針は

答 広域化の検討も協議

問 クリーンピア松崎は1日16トン、8時間燃焼炉として16億円余りをかけて建設された。維持管理に年2億円余りかかる現在の操業状況は。

答（生活環境課長）

竣工後15年を経過し、1日平均12トン进行处理している。経年損傷も進んできており、平成25年度から3力年をかけて集中的に補修を行っている。

問 雲見区との延長交渉経緯からしても、5年はすぐに経過する。町長2期目の任期中の、早い時期での対応が必要ではないか。

答（町長）

近隣市町とも操業年数がかかなり経過しており、広域での共同操業に向け、事務レベルでの勉強会を立ち上げようと話し合っている。なるべく早く事務レベルの検討会を立ち上げて、雲見区との5年間の延長も踏まえてやっていきたい。

問 松中生40%松高以外に

答 地元の良さを魅力に

問 平成25年度の新生児が30人余りであったことを考えると、今後1学年1クラスや教員削減による児童の学力低下が心配されるが。

答（町長）

松崎小学校では、学年により1学級あたり20数人から40人と人数差があり、授業を受ける環境の平等性に欠ける状況にある。また学級数の減少は教員数の減少にも繋がって授業に影響が出ることが考えられる。

町では単独で特別支援員を配置するなど、きめ細かな指導の充実を図っている。

問 1学年60人余いる松中3学年が卒業すると、1学年40人余りの生徒数となる。西伊豆町も同様な傾向から松崎高校の分校化も心配されるが。

答（教育長）

現中学生は、松崎町も西伊豆町も学年2学級を保っているが、今の幼稚園児から下の年代では学年1学級となる。分校については、県内の過去の例を見ると1学級40人を割り込むとその可能性が出てくるので、今後も西伊豆などで地元の良さを再発見していただき、できるだけ松崎高校への進学を勧めていきたい。

問 松崎町と西伊豆町から松崎高校に通う生徒は60%くらいで、残りの40%は他の高校へ通っていると聞いたが。

答（教育長）

本年度の松崎高校への進学率を見ると、松崎中学から62%、西伊豆中学から56%、賀茂中学から47%と年々減少傾向にある。なんとか地元にとどまるよう、松崎高校の魅力を出すことや地域の皆さんの応援が必要と考えている。

問 減災と少子化対策を

答 施設整備と資源の活用



高柳 孝博 議員

こともあり、施設を避難タワーに併設できるか確認することにした。避難ビルを作るとなると浸水深にかかる部分など、補助対象として難しい部分もある。区の総意として出された要望なので県と相談して回答になる。

問 実効ある少子化対策を

答 雇用確保に資源活用

ストップ少子化の長期ビジョンを作れないか。

答 (町長)

新たに子ども子育て支援制度が創設され、平成27年度から実施されるが、若い世代の所得向上の体制・支援づくりが重要である。

問 避難ビル建設の要望は

答 県と相談して回答

しいが、ライフジャケットの購入に2千円の補助をする。救助には地元、地域防災の協力が必要である。

問 西区の避難タワー建設中止の要望の対応は。

答 (町長)

タワーが乳幼児や高齢者のために日差しや雨をしのぐのに充分ではない

問 3〜5分の津波到達に高齢者などは避難不可能では。

答 (町長)

救命艇とかの装備は難

問 定住・交流人口の増大策とイターン者へのサポートは。

答 (町長)

山梨県・長野県・静岡県との3県合同移住相談会を実施した。来年3月に「田舎暮らし応援ツアー」を開催する。イターン者へのサポートは、企画観光課に移住・定住の窓口を設けており、相談には随時対応している。

問 地方創生戦略への取り組みと、各地区との光通信などによるネットワーク化の考えは。

答 (町長)

伊豆半島グランドデザインなどで取り組む。

答 (企画観光課長)

光通信の基盤整備には松崎・三浦で1億5千万円くらいかかるので、地域の職員により相談・対応窓口を強化していく。



少子化対策を（岩科園かかし飾り付け）



桜葉漬大樽（長八美術館駐車場）



佐藤 作行 議員

問 桜葉振興で町の支援は

答 行政として支援する

問 町内の桜葉生産者をはじめ、関連産業に従事する者を中心に「伊豆松崎・桜葉振興会（案）」の設立準備が進んでいるが、町長の考えは。

答（町長）

農業者が経営感覚を持ち、自らの判断で消費者や需要者のニーズ変化などに対応する「チャレンジする農業経営者」が活躍できるように県や関係機関と連携し、環境整備を図っていく。日本一の生産を支えている皆さんが一致団結し、組織だつて経営向上を図っていくことが重要であり、組織設立の動きは喜ばしく、大きな期待を寄せている。

問 桜葉の高品質化と生産拡大の計画については。

答（町長）

県賀茂農林事務所などとも協力しながら、苗木生産活動や、今後検討される桜葉振興が円滑に進められるよう、行政として支援していきたい。

問 販売拡大策としての桜葉消費拡大PRについての考えは。

答（町長）

桜葉振興の一環として消費の拡大を図っていくためには、PR活動は重要であるため、皆さま方と知恵を出し合い、関係機関の協力も仰ぎながら、支援をしていきたい。

問 「ミラノ万博」参加は

答 「チャンス」前向きに

問 ミラノ万博「日本館」

イベントに、町としての参加の意向は。

答（町長）

ミラノ万博では、静岡県と山梨県が共同で来年8月の1カ月間、「富士山と多彩な食材、静岡・山梨ウィーク（仮称）」のイベント名で参加することになっている。現段階で具体的な内容は決まっていないが、ミラノ万博に参加することは桜葉振興のチャンスととらえているので、前向きに検討

したい。

問 ミラノ万博への参加は桜葉日本一から世界一へのステップ台と考えられないか。

答（町長）

松崎の桜葉は、品質、香り、生産量ともすでに日本一なので、仮にミラノ万博に参加するとしても、日本以外で松崎の桜葉を超える品質の葉を生産している国はないと自負している。日本一イコール世界一と大いに自慢していると考えている。

ミラノ万博とは

2015年5月1日から10月31日まで、イタリアのミラノで開催予定の国際博覧会。日本食や日本の食文化日本館出展により、食を絡めた「ジャパンブランド」の確立を目指す。メインテーマを「食」として、静岡県が立候補した。

問

町有地に避難タワーを

答

建設する予定はない



斉藤 重議員

問 海岸周辺は、高台から見ても避難タワー設置の必要性を感じる。松崎十字の園に隣接する町有地を活用し、行政主導で避難タワーを設置すべきだ。介護施設の人たちや逃げる間のない周辺住民が必然的に足の向く場所になると考えるが。

答 (町長) 町の計画では避難タワーの建設予定数は3カ所で、周りに高いビルなどのない地域を対象としている。松崎十字の園周

辺では東京電力松崎営業所とホテルコスモスが避難ビルに指定されており、指摘の町有地に建設の予定はないが、状況に変化が生じた場合には新たな施設を検討する。

問 屋上への外階段設置を

答 耐震性が下がる

問 ある市町では、防災訓練で学校を避難場所

に選んだら、高齢者が階段で詰まり、後ろの人が上がれなかったことを問題

点として上げている。避難場所となつている松崎小学校は、屋上への出口は1カ所で狭い。周辺住民が容易に避難できるよう、小学校裏のホール1階を足場に屋上への外階段を作る考えはないか。

答 (町長)

小学校は避難ビルとして周辺住民の重要な施設となつている。外階段の設置については、過去に検討した経緯があるが、建物に重量がかかつて耐震性が下がることや保安上の問題が懸念されることから断念した。

問 水門建設の状況は

答 説明会などを開催する

問 先行き不透明な那賀川河口水門の建設について、現状では周辺住民の不安は払拭できていない。その後の進捗状況は。

答 (町長)

那賀川河口水門の建設は、県の整備方針の中に含まれている。現在、県

では津波想定高を再検討しており、県的那賀川河口水門整備案が整い次第、周辺住民への説明会を開催することになる。

問 新水源の確保は

答 必要不可欠

問 老朽化の進む八木山水源および三浦地区への埋設管など、水道本管施設等の更新が急がれている。

しかし一方で岩科、道部、三浦地区の水の安定供給のためには、新水源の確保も必要不可欠であ

る。両者は掘削による水の湧出量の有無によって対応が変わるため、早急に掘削や湧出量の調査を行うべきと考えるがどうか。

答 (町長)

将来における水道事業の安定供給の確保および維持管理費の軽減を図るためにも新水源の開発は必要不可欠と考えている。新水源開発の結果次第では、今後の施設整備計画が大きく変わるので、調査実施の有無については即答できないが、時期がきたら決断したい。



新水源の開発を (八木山浄水場)



自信をもった「伊豆まつぎ荘」の運営を



鈴木 源一郎 議員

問 分担金率5%は町側からの話

答 分担金率15%で粘り強く交渉

問 岩地裏山崩落災害の対応について、町長は6月議会で「今議会終了後ただちに被災者に案を示し、解決を図る」と明言した。ところがあれから3カ月、事態はほとんど進展していない。約束を守らないのはなぜか。

答 (町長) 工法は吹付法枠工法で合意したが、分担金率では相手の主張が変わらず、交渉は難航している。

問 公共工事等分担金条例に基づく分担金率15%は守るべきだが、この災害は岩地道部線からのこぼれ水が一因であり、また崩落箇所重要な町道が通っていることを考慮すると条例にこだわる必要はない。加えて、分担金率5%は被害者の主張ではなく、町側から出た話であり、被災者の断固譲らない根拠はそこにあるのではないか。

答 (町長) 道部岩地線からのこぼ

れ水については、調査結果では崩壊箇所に直接流入したとは考えにくいと報告を受けている。町では、崩落箇所上部の町道保全と崩落法面の地山安定復旧を図るための工事を施工するのであり、相手方に提示している分担金率15%も議会との協議を通じて応分かつ妥当な率であると考えており、今後も解決に向け粘り強く交渉していく。

問 赤字の要因、国の悪政

答 景気これから回復

問 伊豆まつぎ荘は、当町のまちづくりの上でなくてはならない施設だ。批判的な意見もあるが、一般会計などからも適切に援助をして、リーダー役として自信をもった運営をしていくべきだと思うがどうか。

答 (町長) 伊豆まつぎ荘は開業以来、雇用や仕入れなど地元貢献し、過去には

一般会計へ2億円余を納付してきた。しかし、平成21年度から5年連続で赤字となり、現在、振興公社と連携して利用客の増加に努めている。今回、借入利息などの軽減を図るべく、金融機関から借入をしている2億8500万円を一般会計・温泉会計から借入れ、繰上償還する予定であり、町としても最大限の支援を行っていく。

問 伊豆まつぎ荘は、かつての半分の稼働率に落ち込んでいる。原因は、都市部の低所得者層の増大、貧富の拡大をさせるアベノミクスにあり、この転換なしに経営困難は打開できないのでは。

答 (町長) 景気回復は全国に広がってきている。伊豆先端に波及するにはまだ時間がかかるが、観光協会など関係機関と連携して誘客を図っていききたい。

問 松崎高校の存続対策は

答 魅力ある「松高づくり」



福本 栄一郎 議員

問 少子化や学校選択の多様化により、松崎高校への入学者数が減ってきている。このまま推移すると地元の高校が消滅し、西伊豆2町は縮小スパイラルに陥ってしまう恐れがある。松崎高校の存続対策と中高一貫教育の成果は。

答 (町長)

生徒数の減少は、教育環境の低下等さまざまな影響を与えることを西豆

地域共通の課題として認識し、「西豆の子は西豆で育てる」を合言葉に、西豆地区連携型中高一貫教育を平成20年度からスタートさせた。教員間の交流授業、部活交流による生徒間の連携、西豆学を通じた地域の人との交流などさまざまな事業を展開し、魅力ある「松高づくり」を進めている。

問 町有施設の支えは

答 料金改定は当面維持

問 民間の研究機関である「日本創成会議」が公表した、当町の2040年の推計人口は、人口移動が収束しない場合、4152人となっている。自治体の存続か消滅かが危惧されている中、町民が安心して暮らして行ける水道施設、ゴミ処理施設の維持管理費と町民の負担(使用料金)は。

答 (町長)

今後、10年間の改修や更新の経費は、水道施設は約10億円、ゴミ処理施設では、平成25年度から3カ年かけて約3億円の焼却炉補修などを行い、その後も毎年約5千万円の維持管理費を見込んでいる。施設を支える使用料金の改定については、景気動向を注視した上で財政計画を考慮し、慎重に検討していきたい。

問 災害情報と救済は

答 早めの避難所開設

問 広島市では、「平成26年8月豪雨」により大規模な土砂災害が発生し、甚大な被害となった。避難勧告が遅れたと言

われているが、未明でもかみ滝のような激しい豪雨の中では、町内放送も分からない状況にある。特に、独り暮らしの高齢者に対する情報伝達と

救済方法は。

答 (町長)

防災ラジオでは全戸にいきわたっている状況でないため十分とは言えない。豪雨となる前に避難所を開設し、同報無線や広報車などで自主避難を呼び掛けている。

また高齢で避難が遅れたりする方々には、自主防や消防団、消防署、警察などと連携した中で対応していくことになる。



災害発生時の救済方法は(避難所開設訓練)

膨らむ世界と縮む日本

静岡県市町議員研修会

7月31日、静岡市民文

化会館で県内35市町の議会議員が集まって研修会が開催され、松崎町議会議員からも議員9人が参加をしました。本年度の研修会では、元NHK解説委員で前学習院女子大学特別専任教授の平野次郎氏を講師に迎え、「世界を読む、日本を読む」と題して講演が行われました。

平野氏は、コーネル大学政治学部大学院（米）に留学後、NHK入局。ワシントン支局特派員やヨーロッパ総局長を歴任し、また解説委員としてもNHKスペシャルなど数々の特別番組を担当するなど国際派のジャーナリストとして活躍されました。平成16年3月に解説委員の任期を終えて個人事務所を設立し、現在は、放送・執筆講演・司会などを務められてお

ります。

講演では、安倍首相の人物像と政策、日本人の人口問題、国際社会の中の日本などについて解説が行われました。

初めに、「スーパーマンなのか、それとも回ってなければ倒れてしまうコマなのか」と題して、安倍首相が世界の国々からどう見られ、何をやるうとしているのか、お話がありました。

次に日本人の人口問題では、世界各国の平均寿命と平均年齢に着目し、世界各国に比べて日本人全体が老けていることが日本の国際競争力の低下につながっていることを指摘。そしてそのことによつてますます「膨らむ世界と縮む日本」の構図が進んでいる状況を説明してくれました。

また、国際社会の中の日本については、日本の

エネルギー問題として、石油や天然ガス、ウラン、石炭などはやがて枯渇し、今後はシェールガスから太陽光に移行して行くだろうとのことでした。

今後も少子高齢化が進んで経済情勢も先行き不透明な我が国ですが、本研修会では、国際社会の中における日本の立ち位置、だとか、世界経済がどのような流れで進んでいくのかを知る機会となり、有意義な研修会でした。

（副議長）



講演する平野氏

議場生中継を開始しました

松崎町議会では、議会の活性化を図り、町民に開かれた議会づくりを目指すため、本定例議会から議場の様子が生中継で視聴できるようにしました。

視聴できる場所は、役場玄関左側（窓口税務課前）と環境改善センターロビーの2カ所で、40インチ中継用のテレビモニターをそれぞれ設置しました。中継する内容は開会（午前9時）の5分前から閉会（午後4時頃）まで、昼休憩中は中断する場合があります。またそれ以外の時間帯や取り止めの場合などは中継が行われません。

町民の皆さまには、一人でも多くの方に町議会における議場内の様子をお気軽にご覧いただき、町政の方針や町の予算審議などを知っていただくとともに、自分の選んだ

議員の活動を身近に感じることができず。

また、併せて町民の皆さまの議会傍聴もお待ちしております。手続きは、本会議開催当日、役場3階の議会議事堂傍聴席入口にある傍聴人受付簿に、住所・氏名・年齢を記入するだけです。議場にもお気軽にお越しください。



設置されたテレビモニター（環境改善センターロビー）

議会のうごき

7月

- 3日 広報編集委員会
- 10日 広報編集委員会
- 17日 議会だより104号発行
伊豆縦貫自動車道建設促進期成
同盟会等合同促進大会（東京都）
- 25日 賀茂郡町議会議長会（西伊豆町）
- 31日 静岡県市町議会議員研修会（静岡市）

8月

- 4日 議会全員協議会
- 6・7・8日
静岡県町村議会議長会
議長県外視察（香川県）
- 19日 下田灯台センター組合議会全員協議会
- 22日 下田灯台センター組合議会定例会
- 26日 下田地区消防組合議会定例会

9月

- 3日 議会運営委員会
広報編集委員会
- 5日 議員会勉強会
- 9・10・11日 第3回定例会



この人に
聞きました③
岩科(中村区)在住
中村峻一さん

町内で活動をしている皆さんを紹介するコーナーです。3回目の今回は、岩科川の清掃をしてくださっている中村さんにお話を伺いました。

清掃を始めたきっかけは、川の中に落ちていたゴミが目について、それを拾い始めたのがきっかけです。平成9年からやっています。

どの位の頻度で実施しているのですか。
定期的なというわけで

はなく、気が付いた時にやっています。ゴミ拾いについては毎日のランニングの中で、道部までの間を拾いながら行っています。いつまで続けられるかわからないけど、できる限りはゴミ拾いなどを続けるつもりです。

皆さんに呼びかけたこととはありますか。

タバコの吸い殻ゴミが多いので、マナーを守り、ポイ捨てはやめてもらいたいですね。

議会や広報への要望は。

質問内容がいつも同じようなテーマで繰り返されていて、答弁も大体同じ答弁をしているので、もっと別のテーマを。また、議会で質問・答弁したものを、どのように今実施されているかを見たいなと思います。

(聞き手 編集委員長)

齊藤 重 議員
静岡県後期高齢者医療
連合議会
副議長に就任

7月28日開催の静岡県後期高齢者医療連合議会において、齊藤議員が副議長に就任しました。

発行責任者

議長 稲葉昭宏

編集委員長

藤井 要

編集委員

土屋清武 鈴木源一郎

一瀬寿一 齊藤 重

高柳孝博

海鳴り

また議決について書く。議会の権能は議決により成り立ち、議決を堅持しないということは議会が機能しないということだ。議決は議員個々の意志から独立したものととなり、議会全体の意志となる。その議会を構成しているのは議員であり、成立した議決に従わなければならないのは当然のことである。この根幹が崩れたら、議会は存在価値さえ疑われることになる。しかしながら最近はこの議決を当局も議会も軽視する傾向がある。情緒的な判断や利害優先に流されるのか、当局の方向性も不安定である。こうした迷走する町の現実の中では、しっかりと町政を監視しなくてはならない。議会は「無理が通れば道理引つ込む」となってはならない。いよいよ来春は選挙の年である。有権者の皆さんは、冷静に議員を評価してもらいたい。

(議長)